



令和 6 年度

安曇野市 協働事業事例集



安曇野市 市民生活部 地域づくり課



1 協働事業事例集の趣旨・目的

安曇野市では、市民の皆さまと市が共に手を取り合い、地域の課題解決や魅力向上に取り組む「協働によるまちづくり」を推進しています。

協働事業は、市民や区など自治会、市民活動団体、企業、教育機関、行政など、多様な主体がそれぞれの強みを活かしながら、地域社会の発展に貢献する取り組みです。

この事例集は、令和6年度に各部局で実施した協働事業の実績や成果を共有し、今後の協働の可能性を広げることを目的としています。

この事例集が、協働のアイデアを得るきっかけとなり、市民と行政がより一層連携し、住みよいまちづくりを進めるための一助となることを願っています。

2 対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

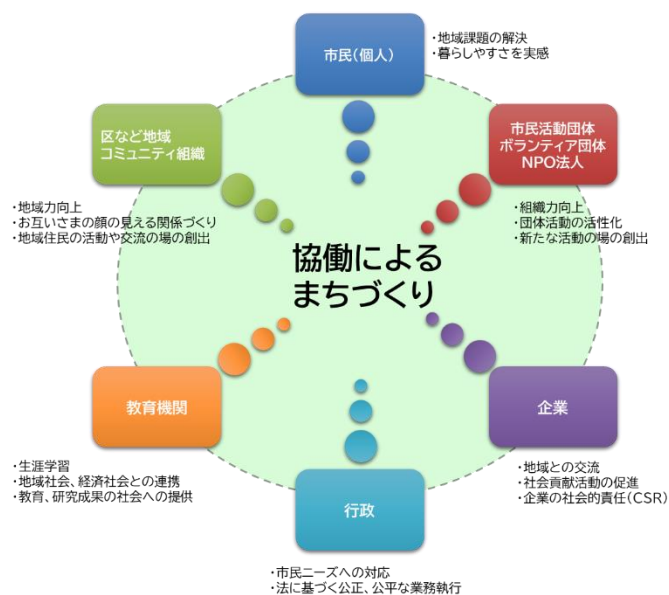
(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）

（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会、NPO、消防団、農業協同組合



令和6年度に市が市民等と実施する協働事業一覧（62事業）

No.	事業名	協働の相手方	事業担当課	項
1	明科中学校3年 総合的な学習の時間 (東部アウトドア拠点について)	明科中学校	政策経営課	2
2	官民協働事業・イオン豊科店 「わが街NAVI」	イオン豊科店、(株)サイネックス	秘書広報課	4
3	若年層の性暴力被害予防月間パネル展	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	人権共生課	5
4	共生社会づくり講座 「誰もが安心できる社会とは？」			6
5	男女共同参画週間パネル展示			7
6	女性に対する暴力をなくす運動			8
7	女性に対する暴力をなくす運動パネル展示			9
8	国際女性デーパネル展示			10
9	安曇野市共生社会づくりフォーラム2024			11
10	あづみの国際DAY！2024			12
11	日本語deスピーチ大会&対話会	あづみの国際化ネットワーク		13
12	ホンデリングデー	主催：長野犯罪被害者支援センター 共催：松本人権擁護委員会安曇野部会、安曇野地区保護司会 長野県安曇野警察署		14
13	安曇野から考える人権展	松本人権擁護委員協議会 安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク		15
14	安曇野市人権のつどい	安曇野市企業人権教育推進協議会 松本人権擁護委員協議会		16
15	世界を知ろう、触れ合おう！オランダ編	安曇野市国際交流協会		17
16	ニュースポーツ多文化交流会	安曇野市国際交流協会		18
17	ピンクシャツデー展示	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク		19
18	光城山1000人SAKURAプロジェクト	光城山1000人SAKURAプロジェクト	地域づくり課	20
19	ゆるーくつながる出会いの場	ゆるつな運営チーム		21
20	あづみの市民活動フェスタ2024	市民活動フェスタ運営チーム		22
21	第45回あづみ野祭り	あづみ野祭り実行委員会		23
22	アルプス花街道事業	アルプス花街道実行委員会		24
23	ふるさと夏祭り	ふるさと夏祭り実行委員会		25
24	信州ふるさととの道ふれあい事業(アダプトシステム)	岩原ひまわりクラブ		26
25	安曇野明科あやめまつり	あやめまつり実行委員会		27
26	安曇野環境フェア	安曇野環境フェア実行委員会	環境課	28
27	不用食器リサイクル	不用食器リサイクル実行委員会		29
28	明科駅周辺まちあるき空き家空き店舗見学会	明科駅周辺まちづくり委員会	移住定住推進課	30
29	課題解決への第一歩。 相続登記義務化から考える空き家相談会	NEX-T安曇野 (株)サンエネック		31
30	首都圏における空き家相談セミナー	長野県建築士会安曇野支部 安曇野市空き家バンク登録仲介事業者		32
31	安曇野市地域支え合い推進フォーラム	NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん 安曇野市社会福祉協議会 安曇野市地域見守り活動に関する連携協定締結団体	高齢者介護課	33
32	精神保健福祉講座「当事者講座」	三郷にに八	障がい者支援課	34
33	安曇野玉ねぎ祭り	玉ねぎ生産団体	農政課	35
34	里山再生計画推進事業	市民、事業者	耕地林務課	36
35	(仮称)安曇野市穂高北穂高地区産業用地整備事業	(株)ヤマウラ、(株)d-ネクスト	商工労政課	37
36	信州安曇野食の感謝祭	商工会		38
37	早春賦まつり	早春賦まつり実行委員会	観光課	40
38	信州安曇野ロゲイニング	信州安曇野ロゲイニング実行委員会		41
39	安曇野花火	安曇野花火実行委員会		42
40	安曇野やさいスイーツプロジェクト	安曇野やさいスイーツプロジェクト		43
41	安曇野 APPLE HALLOWEEN	JR東日本長野支社		45
42	信州安曇野ハーフマラソン	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会	スポーツ推進課	46
43	安曇野市コミュニティスクール事業	地域住民、各種ボランティア団体等	学校教育課 生涯学習課	48
44	安曇野市二十歳の集い	安曇野市二十歳の集い実行委員会	生涯学習課	49
45	安曇野市総合芸術展	安曇野市総合芸術展実行委員会		50
46	第61回童謡祭り 第44回作詞作曲コンクール	童謡祭り実行委員会		51
47	穂高納涼祭	穂高納涼祭実行委員		52
48	穂高地域公民館長杯マレットゴルフ大会	穂高マレットゴルフ協会		53
49	安曇野市穂高地域ゴルフ大会	穂高地域ゴルフクラブ		54
50	穂高文化祭	穂高文化協会		55
51	穂高地域地区公民館対抗球技大会	穂高家庭婦人バレーボール協会 穂高壮年ソフトボール連盟 穂高ソフトバレーボールクラブ		56
52	三郷祭 (三郷地域市民文化産業展及び菊花展)	三郷地域市民文化産業展実行委員会 (三郷祭全体の運営委員会あり)		57
53	三郷祭 (三郷地域市民運動会)	三郷地域市民運動会実行委員会 (三郷祭全体の運営委員会あり)		58
54	三郷祭 (ふれあいコンサート)	三郷地域市民ふれあいコンサート実行委員会 (三郷祭全体の運営委員会あり)		59
55	常念フェスティバル	常念フェスティバル実行委員会		60
56	堀金地域市民運動会	堀金地域市民運動会実行委員会		61
57	明科地域の協働のまちづくり「明科いいまちつくろかい！！」	明科いいまちつくろかい！！	文化課	62
58	第33回信州安曇野薪能	信州安曇野薪能実行委員会		63
59	安曇野文化刊行事業	安曇野文化刊行委員会		64
60	第20回あづみの公園早春賦音楽祭	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会		65
61	安曇野さんぽ市2024	安曇野さんぽ市実行委員会		66
62	ふるさと探究 安曇野	NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団		67

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		明科中学校 3 年 総合的な学習の時間 (東部アウトドア拠点について)
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()
実施団体	相手側	明科中学校
	市側	政策部 政策経営課 企画担当



(説明) 明科駅前改善案を地図に記載

【事業の概要】

取組の背景・課題	市は、過疎指定を受けた明科地域の活性化を目的に「東部アウトドア拠点」の整備を進めている。この拠点が地域に愛され、継続的に賑わいを創出する場としていくには、地域のニーズや求められる機能等を幅広い世代から意見を聞く必要がある。また、進学や就職等で地元を離れた若い世代の皆さんに地元へ戻ってきていただくためにも、地域の魅力を知り愛着を深める機会が必要である。		
事業の目的	将来地域の担い手となる中学生に、地域を知り愛着をもってもらう機会として、アウトドア拠点を含み明科駅前エリアの将来像と一緒に考えてもらい、新たに整備する拠点からの賑わい創出の参考とする。		
成果目標	「10 年後の友達にも自慢できる明科」を考え、その将来像を地図にまとめ文化祭で発表する。		
実施場所	明科駅前～龍門淵公園付近	事業期間	令和 6 年 6 月 11 日～9 月 28 日
事業の概要	明科中学校では、「総合的な学習の時間」において「安曇野学」と題し地域学習に取り組んでいる。今回市は、あづみのファシリテーション部の協力も得ながら「明科の未来を考える」をテーマに学習を進める 3 年生のグループに参画した。学習では、5 回に渡りグループワーク等を実施。明科駅から拠点の整備候補地である龍門淵公園までの街の将来像を、まちあるきを交えながら生徒たちに考えてもらった。その内容を地図にまとめ、9 月 28 日の「明中祭」で発表した。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	明科駅から拠点の整備候補地である龍門淵公園までの街の将来像を考える
	相手側	「総合的な学習の時間」の開催、運営
	市側	学習におけるグループワークのファシリテーション

【実施結果】

成果目標の達成状況	「お金を稼ぐ」と「明科に来てもらう」という2つの視点を設定し、それぞれの視点から明科駅前から龍門淵公園までの理想とする10年後の姿を地図に落とし込んだ。その地図の説明を「明中祭」で1、2年生や保護者等を対象に発表した。 
協働による効果	「東部アウトドア拠点」の整備を進めていく上で中学生の意見を聞くことが出来た。また、中学生にも地元の将来のことを考えていただく良い機会となった。
課題・改善点	今回は中学校側よりいただいた話であるため、今後実施されるかは未定だが、実施すると中学生が地元について考える時間ができるため、良い機会であると考えられる。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		官民協働事業・イオン豊科店「わが街 NAVI」
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（協働広告）
実施団体	相手側	イオン豊科店、㈱サイネックス
	市側	政策部 秘書広報課秘書広報 担当



（説明）デジタルサイネージの設置状況

【事業の概要】

取組の背景・課題	背景：㈱サイネックスとの協同事業として、地域住民が集うイオン豊科店に設置されたデジタルサイネージを活用し、行政情報や地域情報などを発信する。 課題：情報パネルへの動画掲載、インフォパネルへの静止画情報掲載において多くの方に関心を持ってもらえる伝わる広報力が求められる。		
事業の目的	デジタルサイネージを活用した行政情報、市公共施設からのお知らせなどの、情報を発信する。		
成果目標	㈱サイネックスとの協働により、行政情報や地域情報などを発信する。		
実施場所	イオン豊科店	事業期間	令和4年9月～
事業の概要	インフォメーションパネルは、市が定期的にイベントの情報を更新し、同店へ来店された方に行政情報、地域情報を動画や静止画でタイムリーに情報発信している。設置費用などは、広告収入で賄い、市の財政負担はなしの“ゼロ予算事業”であり、㈱サイネックスと市が協働で運用している。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	動画情報の更新手続き
	相手側	広告主の募集及び広告掲載
	市側	行政情報の掲載管理、動画情報の掲載依頼、情報ラックへの資料設置

【実施結果】

成果目標の達成状況	行政情報や地域情報などを発信（掲載内容：動画1本、静止画45件）
協働による効果	タイムリーな情報発信により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	多くの方に関心を持ってもらえる伝わる広報力の向上

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		若年層の性暴力被害予防月間パネル展示	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年4月が「若年層の性暴力被害予防月間」となっており、新生活が始まるこの時期に若年層が被害に遭いやすいため、被害予防の意識を高める必要がある。		
事業の目的	市民に対して性犯罪・性暴力の防止に関心をもってもらう。		
成果目標	若年層の性暴力被害等を知ってもらい、性犯罪・性暴力の防止に対する意識を高める。		
実施場所	本庁舎 1階東ロビー	事業期間	令和6年4月1日～26日
事業の概要	パネル展示を通じて、若年層の性暴力被害予防を図る。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	パネル展の準備、片づけ
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（バナー作成等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	若年層の性暴力被害予防に関する認知が広まった。
協働による効果	より多くの方に展示を見てもらうことができ、啓発を行うことができた。
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		共生社会づくり講座 「誰もが安心できる社会とは」	
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講演会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	昨年の「LGBT 理解増進法」施行等、性の多様性への関心は高まってはいるものの、性の多様性に関する市民の理解は深まっていない。		
事業の目的	安心できる社会とはなにか、性の多様性を切り口に、どんな人も安心できる環境について考える機会とし、共生社会について考える入口とする。		
成果目標	多様な性を含め、多様な人がいるということを実感してもらう。		
実施場所	市役所 4階 大会議室	事業期間	令和6年4月5日
事業の概要	性的マイノリティの当事者や性暴力被害サバイバーの方を講師に迎え、歌やトークを交えながら、多様な人がいることを学ぶきっかけとする。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	当日の運営
	相手側	地域への広報
	市側	事務（事前準備、広報等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	当事者からの話を聞くことで、多様な人がいることを実感してもらえた。
協働による効果	関心の薄いと思われる高年齢層の参加者の参加が多く、効果的な講座となった。
課題・改善点	事前のすり合わせ等、より綿密な打ち合わせを心がけ、スムーズな運営となるよう改善が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		男女共同参画週間パネル展示
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係



展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年6月23日～6月29日が男女共同参画週間となっているものの、市内の男女共同参画に関する意識の高まりにはつながっていない。		
事業の目的	パネルを展示することで、来庁する市民に関心を持ってもらうため。		
成果目標	男女共同参画週間を知ってもらい、様々な分野で男女共同参画が必要であることを知ってもらう。		
実施場所	本庁舎 1F 東ロビー	事業期間	令和6年6月17日～28日
事業の概要	今年度は「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにジェンダーの観点から働き方や家事分担等の展示を通し、男女共同参画及び共生社会づくりの必要性を感じてもらい、興味・関心を持ってもらえるよう啓発する。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	展示
	相手側	各組織への伝達
	市側	事務（展示準備）

【実施結果】

成果目標の達成状況	来庁された市民の方へ男女共同参画やワーク・ライフ・バランスを知ってもらうきっかけとなった。
協働による効果	男女共同参画に関する課題を共有することができ、地域での展示等へ活用ができた。
課題・改善点	・ 展示そのものを見てもらえる工夫が必要。 ・ 展示内容も、市民の方が興味を持ちやすく、わかりやすい内容にする。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		「ゲームで体験！ みんなで語ろう性教育」講座
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係



講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	「性」や「性教育」は生きていくうえで、とても大切なものだが、敬遠されがちであり、正しい知識を学ぶ機会があまりない。		
事業の目的	11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせ、包括的セクシュアリティ教育の視点から、子どもや子どもを取り巻く大人が自分自身を大切にし、他者を尊重すること学ぶ機会とする。		
成果目標	安心して性について話してもらえる環境づくりを学んでもらう。		
実施場所	堀金公民館 講堂	事業期間	令和6年11月9日
事業の概要	講演やワークショップ等を通じて、性に関する知識を学んだり、共有したりする機会とする。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	当日の運営
	相手側	地域への広報、講師への対応
	市側	事務（事前準備、広報等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	性に関して学び直しの機会、きっかけづくりとなった。
協働による効果	様々な年代層の人が一緒に学び合う機会にできた。
課題・改善点	事前のすり合わせ等、より綿密な打ち合わせを心がけ、集客方法等の改善が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		女性に対する暴力をなくす運動パネル展示
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係



展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	例年11月12日～25日が「女性に対する暴力をなくす運動」期間であるが、認知度が低く、関心も高まっていない。		
事業の目的	市民に対して性犯罪・性暴力の防止に関心をもってもらう。		
成果目標	女性に対する暴力をなくす運動を知ってもらい、市民の性犯罪・性暴力の防止に対する意識を高める。		
実施場所	本庁舎 1階西ロビー	事業期間	令和6年11月11日～29日
事業の概要	パネル展示を通じて、女性に対する暴力をなくす運動の周知を図る。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	パネル展の準備、片づけ
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（バナー作成等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	「女性に対する暴力をなくす運動」及びパープルリボン運動の認知が広まった。
協働による効果	より多くの方に展示を見てもらうことができ、啓発を行うことができた。
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		令和6年度 国際女性デーパネル展示
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係



展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年、3月8日は国連が定めた「国際女性デー」であり、社会的、経済的、文化的、政治的な女性の権利と国際平和を祝う日、男女平等を加速させる日とされている。		
事業の目的	国際女性デーをきっかけにジェンダー平等について関心をもってもらう。		
成果目標	国際女性デーを知ってもらい、ジェンダー平等の意識を高める。		
実施場所	本庁舎 1階東ロビー	事業期間	令和7年3月5日～28日
事業の概要	相馬黒光に関するパネル展示、クロースライン in 信州 2025（3月10日～）、コンサート（3月24日 17時～）を実施。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	パネルの準備、片付け
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（バナー作成等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	国際女性デーやジェンダー平等に関する認知が広まった。
協働による効果	より多くの方に展示を見てもらうことができ、啓発を行うことができた。
課題・改善点	継続した啓発を行うとともに、より行動変容につながる内容の検討が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第3回安曇野市共生社会づくりフォーラム	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市共生社会づくりフォーラム実行委員会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

ワークショップの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	年齢・性別・国籍・障害の有無等に関わらず、誰もが個性と能力を発揮し、活躍する共生社会の実現が求められている。		
事業の目的	ワーク・ライフ・バランスの実現のため今回は男性をメインターゲットとし、共生社会の実現に向けた交流の場と情報共有の場とするため。		
成果目標	共生社会について、自分事として考えてもらうきっかけづくりとする。		
実施場所	市役所 4 階大会議室	事業期間	令和6年7月28日
事業の概要	講演やワークショップ等を通じ、現代の働き方やアンコンシャスバイアスなどを学び、「共生社会」のために自分に何ができるのかなどを考えるきっかけとする。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	フォーラムの実施
	相手側	当日の準備、運営
	市側	事務（実行委員会事務局）

【実施結果】

成果目標の達成状況	共生社会づくりのために自分に何ができるかを考えるきっかけとなった。
協働による効果	関係団体の意識づくりにつながった。
課題・改善点	共生社会づくりという広いテーマのため、自分事にできる切り口で、啓発を続けていくことが必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		あづみの国際 DAY！2024	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

ステージパフォーマンスの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和6年4月1日現在、1,472人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民を含む参加市民に、楽しみながら外国文化に触れていただき、国際交流・協力、多文化共生に対する理解を深める機会を提供する。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	穂高交流学习センター みらい	事業期間	令和6年8月11日（日）
事業の概要	物品・食品販売、ワークショップ、文化紹介等 ステージ出演（民族舞踊の発表等）		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	出展・出演者募集、事前説明会、会場準備及び片付け等
	相手側	司会・進行等
	市側	配布資料作成等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	昨年に続き「穂高交流学习センターみらい」で開催し、併設する図書館利用者等多くの方が来場され、効果的な実施ができた。
課題・改善点	関係者全員が認識を共有し、スムーズな準備・運営となるよう、より綿密な打ち合わせを行う。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】 事業の名称		日本語 de スピーチ大会 & 対話会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

スピーチをした方々

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和6年4月1日現在、1,472人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等への理解促進。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	豊科交流学習センター きぼう	事業期間	令和7年10月27日
事業の概要	地域に暮らす外国籍市民等が、暮らしの中での想い等を日本語で発表するとともに、聴講者との「対話会」を行う。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	広報、会場準備及び片付け等
	相手側	発表者の募集、原稿作成の支援等
	市側	多文化共生パネル展等による周知、配布資料等準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	豊科交流学習センターきぼうで開催したことにより、図書館利用者等多くの方が来場され、より効果的に実施できた。
課題・改善点	関係者全員が認識を共有し、スムーズな準備・運営となるよう、より綿密な打ち合わせを行う。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ホンデリングデー	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	認定特定非営利活動法人 長野犯罪被害者支援センター	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	



本等の受付

【事業の概要】

取組の背景・課題	犯罪被害者支援について市民が直接関わり、取り組みを知ってもらう機会であり、また、長野県安曇野警察署及び、松本人権擁護委員協議会安曇野部会、安曇野地区保護司会が市とともに共催となることで広く犯罪被害者支援につなげる。		
事業の目的	継続的な実施により、市民の犯罪被害者支援への理解や協力の促進を目指す。		
成果目標	犯罪被害者支援に資すること。		
実施場所	市役所本庁舎東ロビー	事業期間	令和6年11月25日
事業の概要	・ 本、CD/DVD、ゲームソフト等の回収。 ・ リユース本による募金の受付		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	内容の検討、会場準備及び片付け。
	相手側	集まった本等のとりまとめ。
	市側	プレスリリース、広報誌、ツイッターの活用による市民への周知。 当日受付の協力。1月31日までの寄付の受付。

【実施結果】

成果目標の達成状況	本・CD・DVD・ゲームソフト 1,927点、寄付金 720円 が集まった。 (ホンデリングデー当日分のみ)
協働による効果	市が主体的に広報を行うことで広く市民に周知することができる。
課題・改善点	今年度も新聞等への掲載により多くの寄付を集めることができた。安曇野警察署の協力のもとライポ君の参加が実現したが、子どもや若年層の来庁が少ないと感じている。来年度は若年層への啓発をどのように行うか、効果的に周知を図れたらと考える。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野から考える人権展	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	・ 松本人権擁護委員協議会安曇野部会 ・ 安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	昨年度スタートした「安曇野市多様性を尊重し合う共生づくり計画」の取り組みの一環として、共生社会づくりを進めるためには、市民の「共生社会」への理解を深め、市民一人一人が共生社会の担い手としての意識向上を図る必要がある。		
事業の目的	人権啓発の展示を通して、人権尊重の意識を啓発し、すべての人の人権が尊重され、あらゆる分野で誰もがともに個性と能力を十分に発揮することができるまちづくりに資することを目的として人権啓発展示を行う。		
成果目標	多文化共生や男女共同参画、ユニバーサルデザインに対し関心を持ってもらう。		
実施場所	貞享義民記念館	事業期間	令和6年12月3日～20日
事業の概要	クイズ形式のユニバーサルデザインのパネルをはじめ、多文化共生パネル、男女共同参画パネル、犯罪被害者支援などの展示を行い、人権に関する関心を持ってもらう。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	周知
	相手側	展示用品の援助等
	市側	事務（展示パネル作成、設営等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	来館者に人権について考えてもらうきっかけとなった。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。展示したパネルの貸し出しの依頼があった。
課題・改善点	・ 身近な題材を取り上げ、より興味を持ってもらえる内容を検討する。 ・ 誰もが活躍できる共生社会にするため、各個人の行動変容を促す展示を検討する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		令和6年度 安曇野市人権のつどい	
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市企業人権教育推進協議会 松本人権擁護委員協議会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係 教育部 生涯学習課 社会教育係 教育部 学校教育課 教育総務係	

講演会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	法務省が定める毎年12月4日から10日の「人権週間」に合わせて重点的な啓発活動を実施し、人権尊重意識の普及を図る。		
事業の目的	市民等の人権尊重意識の普及。		
成果目標	協働による人権尊重の意識づくり。		
実施場所	豊科公民館ホール	事業期間	令和6年12月7日
事業の概要	・ 講演（講師：丸山将一さん） ・ 第43回全国中学生人権作文コンテスト松本地区大会市内入選者及び作文発表 ・ 人権デザインプロジェクトポスター、安曇野市の人権に関する資料等の展示		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	参加者募集、会場準備及び片付け等
	相手側	人権啓発イベント等での周知、司会進行等
	市側	講師手配、広報物作成、進行シナリオの作成等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	企業、関係団体等を通じて広く周知ができた。
課題・改善点	関係機関からの参加者が多く、より幅広く市民等に参加していただけるよう内容や開催方法等を検討する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		世界を知ろう、触れ合おう！ オランダ編	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和6年4月1日現在、1,472人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等を講師とする講座を実施し、多文化共生の理解促進を図る。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	豊科交流学習センター きぼう	事業期間	令和7年2月2日
事業の概要	オランダの自然や文化、人気のスポーツ等の紹介。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	広報、会場準備及び片付け等
	相手側	受付、司会進行等
	市側	講師との調整、必要物品の準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	市の広報の他、プレスリリースを行い、広く市民への周知を行うことができた。
課題・改善点	関係者の打合せをより綿密に行い、準備や運営をスムーズに行えるよう改善する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ニュースポーツ多文化交流会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

囲碁ボールを楽しむ参加者

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和6年4月1日現在、1,472人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民と日本国籍市民がお互いに協力しながら、国籍や年齢などに関係なく楽しめる「ニュースポーツ」の体験を通じて交流することにより、多文化共生への理解を深める。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	三郷文化公園体育館	事業期間	令和6年11月10日
事業の概要	3種類のニュースポーツの体験（ボッチャ・囲碁ボール・モルック）		

【協働の役割分担】

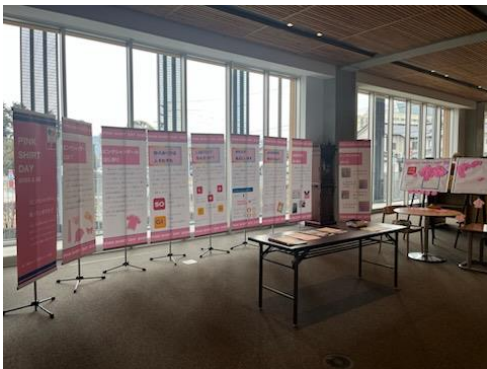
役割分担	一緒の取組	広報、会場準備及び片付け等
	相手側	用具の手配、受付、司会進行等
	市側	その他必要物品の準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	市の広報の他、オンライン日本語教室での周知により広く参加を呼びかけることができた。誰でも参加できる体験型の講座として、参加者からも好評であった。
課題・改善点	関係者の打合せをより綿密に行い、準備や運営をスムーズに行えるよう改善する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		令和6年度 ピンクシャツデー展示	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年2月の最終水曜日は、ピンク色のものを身に着けることで、いじめ反対の意思表示を示す運動「ピンクシャツデー」である。重大な人権侵害であるいじめをなくすとともに、セクシュアリティに対する偏見をなくす必要がある。		
事業の目的	バナー展示等により来庁者及び職員に向けた意識啓発を行う。		
成果目標	いじめ防止と性的マイノリティへの理解を高める。		
実施場所	本庁舎 1階東ロビー	事業期間	令和7年2月17日～28日
事業の概要	ピンクシャツデー、性的マイノリティに関する展示		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	パネルの準備、片付け
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（バナー作成等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	いじめ防止と性的マイノリティに関する認知が広まった。
協働による効果	より多くの方に展示を見てもらうことができ、啓発を行うことができた。
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）
実施団体	相手側	光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当



豊科東小学校4年生による桜の植栽の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	観光の名所として知られる光城山の桜は、麓から山頂まで徐々に開花する様子が「昇り龍」に例えられ、地域に親しまれている。しかし、近年老木化が進み、早期の植え替えが課題となっていた。課題解決を図るためには、市民及び市が協働で取り組む必要があり、平成 26 年度に光城山の所有者や地元区、NPO と市にて、「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」を設立した。		
事業の目的	市民と市が協働で桜の植栽を進めるとともに、光城山及び周辺地域一体は、豊かな自然環境や城山としての歴史・文化など多くの魅力があるため、市民へ広く発信し、市の一体感の醸成を図ることを目的とする。		
成果目標	・「昇り龍」を維持し、桜の名所としての光城山を守る。 ・光城山の魅力を高める。		
実施場所	光城山一帯	事業期間	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日
事業の概要	令和 6 年度は、平成 27 年度に植栽した桜の生育状況を確認し、不要な柵の撤去を実施した。また、豊科東小学校 4 年生と協力し、山頂付近に桜を 8 本植栽した。プロジェクトや光城山の魅力を高めるため、地元農家による軽トラ市（4 回）の開催するほか、市の主催する自然観察会では参加者にプロジェクトの活動や、光城山の歴史の紹介を行った。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	植樹に向けた各種検討、その他各事業の企画運営 など
	相手側	植栽事業準備作業、桜の育成管理 など
	市側	予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、植樹参加者のとりまとめ など

【実施結果】

成果目標の達成状況	豊科東小学校と 8 本の桜を植栽した。軽トラ市や講座で、光城山の魅力を高めた。
協働による効果	双方が主体的に役割を担い合い、各種事業を実施し、成果を達成することができた。
課題・改善点	植栽した桜の生育管理や、設置した鹿等防護柵の今後について、双方で協議をすすめる必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ゆるーくつながる出会いの場 (通称 ゆるつな)
協働の形態		1. 共催 2. <u>事業協力</u> 3. 実行委員会 4. その他()
実施団体	相手側	ゆるつな運営チーム
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当



ゆるつな茶話会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	市民団体同士、団体と市民が気軽に交流し、つながりを生み出す場として令和3年度より実施。		
事業の目的	市民活動に取り組む方や何か活動を始めたい方等様々な人が気楽に集まりゆるくつながることで、情報交換や連携のきっかけをつくる。		
成果目標	交流の場を作り、活動団体同士の連携を生み出す。		
実施場所	安曇野市役所 各地域公民館など	事業期間	令和6年5月～令和7年2月
事業の概要	市民の希望者を募り参加するゆるつな運営チームで企画・運営を行う。集まった人同士で自由に話しながら情報交換できる「ゆるつな茶話会」を年7回実施。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企画内容検討、当日の運営全般、振り返り、チラシの配布
	相手側	参加者呼び込み
	市側	会場・必要機材の準備、ホームページ等への掲載、チラシの作成・配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者同士でつながり共同の企画を立ち上げるなど、新たな活動につながった。
協働による効果	市民活動をしていなくても、交流のきっかけとして参加する人も多く、幅広い分野の人が集まりつながりを広げるきっかけとなった。
課題・改善点	運営チームのメンバーが固定化されており、新しいメンバーをどのように増やすか。また、学生や若者の参加が少ないことが課題。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		あづみの市民活動フェスタ 2024	
協働の形態		1. 共催 2. <u>事業協力</u> 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	市民活動フェスタ運営チーム	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

出展団体と運営チームの皆さん

【事業の概要】

取組の背景・課題	市民活動について広く市民に周知するとともに、団体同士の交流の機会をつくるため、令和元年度から実施。コロナ禍を経て現在の形式では令和4年度から3回目の開催となる。		
事業の目的	広く市民が市民活動や協働のまちづくりについて知り、参加するきっかけとする。		
成果目標	市民が各団体の活動に触れることで、市民活動に対する関心を高め理解を深める。		
実施場所	穂高交流学习センター みらい	事業期間	令和6年9月29日
事業の概要	希望する有志の市民で構成される運営チームで企画立案から当日運営まで行う。令和6年度は「みんなの縁側 寄ってきましょ！」をテーマに実施。43 団体が参加し、ブース出展やステージ発表、パネル展示で日頃の活動を PR した。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	企画内容検討、当日の運営全般
	相手側	広報活動・チラシ作成
	市側	出展団体とりまとめ、会場確保、機材の準備、ホームページ等への掲載、 チラシの配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	43 団体が出展し、ブース出展、ステージ発表、パネル展示を通じ各団体の活動を多くの市民に PR することができた。
協働による効果	運営チームに大学生が新たに参加したことで、学生団体のフェスタへの参加や、地域づくり課主催のイベントに声を掛けるなど、その後のつながりが続いている。
課題・改善点	参加団体に企画段階から参画してもらう工夫が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 45 回 あづみ野祭り	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	第 45 回 あづみ野祭り実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

第 45 回 あづみ野祭り当日の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	昭和 50 年代ごろから、夏に各区で行われていた盆踊りの活気がなくなり、その状況を憂いた当時の豊科町長の呼びかけで、あづみ野祭り実行委員会が組織され、それ以来、夏の風物詩として市民に親しまれている。		
事業の目的	あづみ野祭りをとおして市民の連帯感と「心のふるさと」づくりに努め、観光の促進と文化厚生の発展に資し、かつ、産業経済の進展に寄与すること。		
成果目標	踊りの伝承を目的にあづみ野祭りを開催することで、地元住民の交流機会、特に子どもたちが楽しみにする伝統行事の体験機会とする。		
実施場所	国道 147 号（新田交差点⇄成 相交差点）及び駅前通り（市 川歯科医院交差点⇄八十二 銀行豊科支店交差点）	事業期間	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日 【事業実施日： 令和 6 年 7 月 27 日（土）】
事業の概要	7 月の最終土曜日に国道 147 号線と駅前通りを会場として行う。地区公民館や企業などが踊り連として参加し、あづみ野ばやし踊りを楽しむ。当日の踊り参加者等に向け踊りの練習会を企画し、伝統文化の継承を行う。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒に取組	当日の運営
	相手側	あづみ野祭りの企画立案、交通防災対策の検討
	市側	補助金の交付、会議や踊りの練習会場等の手配

【実施結果】

成果目標の達成状況	当日は来場者約 15,000 人、踊り連 33 連（約 2,300 人）が参加した。公民館や企業が踊り連として数多く参加したことで、多くの地域住民が伝統行事を体験することができ、あづみ野祭りへ参加した市民間の交流を深めることができた。
協働による効果	お互いの特性を活かした運営により、上記の成果をあげることができた。
課題・改善点	商店街のにぎわいが衰退している現状があるため、お祭りの会場の見直し等、協議を進めていく必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		アルプス花街道事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	アルプス花街道実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

苗定植後の生育・管理状況の巡視

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野冬季五輪を機に高まり、広く市民に参加を募り、旧豊科 IC（安曇野 IC）付近の沿道に花を植える活動が始まった。現在は、市内全域に活動が広がっている。		
事業の目的	住民の創意工夫による美しい景観の形成により、安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、活動を通じた絆や生きがいがいづくり等による地域コミュニティの形成に寄与することを目的とする。		
成果目標	マリーゴールドの植栽及び除草等の管理により沿道の景観美化を維持する		
実施場所	市内9か所の沿道（県道柏矢町田沢停車場線ほか）及び市シニアクラブ連合会活動区画	事業期間	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日
事業の概要	毎年参加を希望する個人・団体で実行委員会を構成し、市内9か所の沿道等でマリーゴールドの植栽及び除草等の管理を行い、景観形成に努める。一部の区画では、県、実行委員会、市の三者でアダプトシステム協定を締結し、実施している。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	マリーゴールドの植栽等沿道管理
	相手側	実行委員会の運営
	市側	委託料の支払、参加団体の取りまとめ、広報、事務局の補佐等

【実施結果】

成果目標の達成状況	57 団体（1,162 名）及び市シニアクラブ連合会 21 団体（607 名）の参加により、沿道の景観美化に努めることができた。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、多くの団体等の主体的な参加により安曇野市の景観形成に取り組むことができた。
課題・改善点	参加団体数が減少しており、景観美化が行き届いていない区画がある。 役員が固定化、高齢化してきており、新たな担い手の発掘、管理体制に工夫が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ふるさと夏祭り	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	ふるさと夏祭り実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 三郷地域担当	

花火打上

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧三郷村の昭和 61 年から実行委員会主催によって開催されている。多くの市民により親しまれ夏の恒例行事として定着している。		
事業の目的	市民相互の交流と連帯感を高め、ふるさと意識の醸成と地域振興を目的としている。		
成果目標	夏祭りの開催により、幅広い世代による交流とふるさとへの愛着を高め、地域の活性化と振興を図る。		
実施場所	三郷文化公園周辺	事業期間	令和 6 年 8 月 1 1 日
事業の概要	各団体が構成する実行委員会が主体となり、出店、ステージ発表、抽選会や打ち上げ花火など多様なイベントにより祭りを盛り上げている。寄付金や協賛金、補助金で運営され地域を挙げてのイベントとなっている。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	企画、運営、会場準備及び片付け
	相手側	寄付金・協賛金の確保、各関係機関への連絡調整、備品の整備
	市側	補助金の交付、会場確保、広報、看板準備

【実施結果】

成果目標の達成状況	市内外から多くの来場者で賑わった。住民同士の親睦を深めるとともに地域活性化の役割を果たしている。
協働による効果	市、商工会、区、学校などそれぞれが主体的に取り組み、円滑な祭りの運営が図られた。
課題・改善点	来場者の増加に伴い安全管理を徹底する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	岩原ひまわりクラブ	
	市側	市民生活部 地域づくり課 堀金地域担当	

作業の様子（今年度の写真ではありません）

【事業の概要】

取組の背景・課題	美化活動を通して子どもからお年寄り並びに事業所までが共に協力、交流をしながら、住みよい・美しい岩原区を作り上げ、地域活性化を図るために活動が始まる。平成 25 年 7 月 2 日に岩原ひまわりクラブ・市・安曇野建設事務所で 3 者協定を結ぶ。		
事業の目的	長野県が管理する道路において、地域住民が主体で行う道路の美化活動を行政が支援し、生活空間の一部である道路への愛着心を深めていただき、地域環境の向上を図る。		
成果目標	花の植栽や美化清掃作業等により、活動区間を良好な環境に保つ。		
実施場所	主要地方道塩尻鍋割穂高線 (堀金烏川(岩原)地区)	事業期間	5 月～11 月
事業の概要	岩原ひまわりクラブは、地域住民と協力し、歩道及び歩道に設置された植樹帯等に花などを植え、良好な地域環境の保持に努める。市は、岩原ひまわりクラブ及び建設事務所との連絡調整を行うとともに、岩原ひまわりクラブが収集したゴミの処理に協力する。建設事務所は、活動区間に団体名等を記載した表示板を設置するとともに、岩原ひまわりクラブの希望により、必要な清掃用具、材料等を貸与又は支給する。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	なし
	相手側	歩道及び歩道に設置された植樹帯等の美化清掃作業
	市側	ゴミ処理

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動区間の美化のため、各々の役割分担により、花の植栽等を実施した。
協働による効果	道路の美化と地域環境の向上
課題・改善点	花の管理の省力化、クラブ員高齢化による後継クラブ員の確保。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野明科あやめまつり	 2024 あやめまつりフォトコンテスト 最優秀賞作品「赤紫、打ち寄する」
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あやめまつり実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 明科地域担当	

【事業の概要】

取組の背景・課題	昭和 60 年（1985 年）旧明科町が町制施行 30 周年記念事業として開催。平成 5 年にはあやめ公園が完成し、あやめの栽培を通じた地域づくりを続けている。3 年に一度の株分けなど、花の管理が課題である。		
事業の目的	水郷明科のあやめの魅力を広く伝え、永く後世に残し、あやめまつりを通して人と人との和を広げるとともに、地域の絆を深め、魅力的な地域づくりをしていく。		
成果目標	市民相互の交流促進と賑わいを創出し、地域の活性化を図る。		
実施場所	あやめ公園・龍門淵公園ほか明科地域一円	事業期間	毎年 6 月中旬
事業の概要	雄大な北アルプスを背景に咲く花菖蒲と交流を楽しむイベントとして、花菖蒲の開花時期に合わせて 6 月中旬の 2 日間、あやめ公園及び龍門淵公園を主会場に開催する。開催に先立ち、実行委員、地域住民、地元高校生が、あやめ公園の清掃活動を行う。特設ステージでのイベントに加え、ラフティング体験、にじますのつかみどり、深緑ウォーキング、芸能発表会及びフォトコンテストを実施する。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	あやめ公園の清掃活動、事前準備、安曇野明科あやめまつり催事運営
	相手側	催事企画・運営、出演者・出店者調整、会計事務
	市側	事務局（会議開催・資料作成、届出・申請事務、各種調整）、補助金交付事務

【実施結果】

成果目標の達成状況	約 15,000 人の来場者で賑わった。世代を超え市民相互の交流促進につながった。
協働による効果	地域住民、地域団体、地元高校生等が中心的な役割を担い催事を開催できた。
課題・改善点	来場者の交通誘導及び自主財源の確保が課題である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野環境フェア 2024	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野環境フェア実行委員会	
	市側	市民生活部 環境課 環境政策担当	

（説明）会場の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市環境基本計画策定を機に、計画推進の第一歩として安曇野市内外で環境に関する活動を展開されている皆さんの活動紹介の場を設けることを期待して始まった。		
事業の目的	フェア開催により、市環境基本計画で定められた取り組みを広く紹介するとともに、出展者と来場者の交流を深め、これまで参加していなかった人も巻き込みながら、つながりの環を広げていくことを目的とする。		
成果目標	参加者数 2,000 人		
実施場所	堀金総合体育館	事業期間	令和 6 年 10 月 12 日～13 日
事業の概要	安曇野環境市民ネットワークをはじめとする環境活動に勤しむ市民団体等とともに実行委員会を設立し、フェアの企画・立案から、準備・広報・運営まで協力しながら実施している。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企画立案・実施、実行委員会の開催、会場準備、当日運営
	相手側	実行委員会への出席、ポスター・チラシ配布
	市側	予算執行（市一般会計）、出展者募集・対応、後援申請、広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者数 2,100 人となり、多くの来場者が環境への取組を学べた。
協働による効果	環境への取組を通じ、参加者・実行委員・行政の交流がはかれた。
課題・改善点	実行委員の主体的な参加が望まれる。また一部委員の固定化により、実行委員会への新規参入のハードルが上がる、フェアの運営手法が時代にそぐわないものになりつつあるなどの弊害が生じている。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		不用食器リサイクル	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市不用食器回収実行委員会	
	市側	市民生活部 環境課 資源循環推進担当	

（説明）・・・・・・・・・・

【事業の概要】

取組の背景・課題	一般家庭から排出される食器は不燃ごみとして埋め立て処理しているが、ごみの減量化・循環型社会形成の観点から、食器の再利用（リユース）や再資源化（リサイクル）等を推進することにより、埋め立て処理量を減らすことが求められている。		
事業の目的	家庭で不用となった食器を再利用及び再資源化することにより、ごみの減量を図り、循環型社会の形成を促進する。		
成果目標	市民と協働で不用食器の回収を行って再利用（リユース）の場を提供し、ごみの減量化と資源の有効活用につなげる。		
実施場所	① 県民豊科運動広場駐車場 ② 堀金総合体育館	事業期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
事業の概要	県民豊科運動広場駐車場にて、市民が持ち込んだ食器を回収する。きれいなものは回収当日のもったいない市と翌週の環境フェアで配布し、それ以外は岐阜県にある再商品化事業者によって再資源化される。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事前準備、当日の食器運搬、後片付け
	相手側	実行委員会の招集、当日の人員配置、市民の誘導、食器の分別
	市側	当日の手伝い、物品貸し出し、岐阜への食器運搬

【実施結果】

成果目標の達成状況	概算で 6,700 kg ほどの食器が持ち込まれ、4,600 kg が岐阜市で再資源化された。残りはもったいない市と環境フェアで配布され、目的である再利用と再資源化は十分に達成できた考える。
協働による効果	役割分担により、事業を効率的に実施することができた。
課題・改善点	実行委員会及びボランティアの高齢化により、当日作業（主に食器運搬）の負担が大きくなっている。当日はこちらの想定以上の市民が訪れ、長時間待たされたことへの苦情が寄せられた。効率のいい受け渡し方法の検討及び 1 人当たりの持ち込み量を制限する等の対策が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		明科駅周辺 まちあるき空き家・空き店舗見学会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	明科駅周辺まちづくり委員会	
	市側	市民生活部 移住定住推進課 空家活用係	

見学会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	明科地域は少子高齢化や人口減少が進み、令和4年4月に市内で一部過疎地域の指定を受けた。駅周辺は、公共施設や店舗など生活に利便性の高いコンパクトシティとして暮らしやすい環境であるが、空き家の増加によりまちが空洞化し魅力や活力が衰退してきている。 まちの魅力を情報発信しながら、空家の利活用を促進することで、移住や創業など交流、関係人口の創出から人口増加につなげることが課題となっている。		
事業の目的	空き家に加えて、空き家の利活用事例見学や、ガイドによるまちの歴史、文化などの魅力を情報発信し、移住や創業から生まれる人や地域とのつながりを体感することで、参加者と明科地域との関係性を生み出し、明科のまちに賑わいを取り戻すこと。		
成果目標	明科地域の魅力発信と空き家物件の活用促進。（移住や創業など多様な利活用の成立）		
実施場所	明科駅周辺	事業期間	令和6年5月～令和7年2月
事業の概要	年間4回開催。明科駅周辺のまちなかに点在する空家や利活用物件（龍門測てらすなど）の内覧によるマッチング及び活用事例紹介とともに、地域に精通したガイドから歴史や文化、まちの魅力を紹介している。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業の企画、運営、空き家物件の掘り起こし、活用のマッチング促進
	相手側	イベント統括、まちなかガイド、空き家活用・創業・移住相談
	市側	謝礼（ガイド・建築士）、空き家所有者交渉、開催通知、制度案内・相談

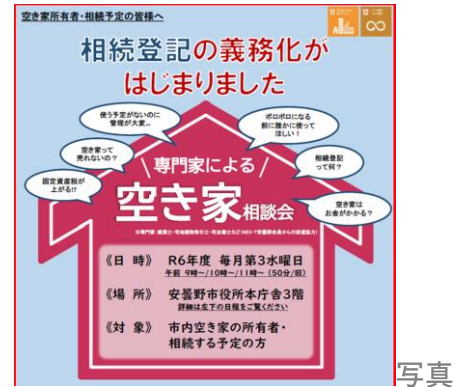
【実施結果】

成果目標の達成状況	毎回10人以上参加。見学した1件が賃貸契約成立し、達成できた。
協働による効果	情報を共有、活用することで、所有者と利活用希望者による多様なマッチングの機会が生まれている。龍門測てらすでは、空き家活用や移住相談に直接、対応しており、官民連携による総合的な空き家対策が進んできている。
課題・改善点	空き家を活用した地域活性化に対する所有者及び地域への理解浸透、未利用物件の活用促進

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		相続登記義務化から考える空き家相談会
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	NEX-T 安曇野
	市側	市民生活部 移住定住推進課 空家活用係



（説明）相談会チラシ

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市内の空き家戸数は、令和5年12月末時点で979戸確認され、そのうち800戸程度は利活用可能なものとなっている。しかしながら所有者は様々な悩みや問題を抱え、活用まで至らないケースが多く課題となっている。		
事業の目的	空き家の利活用が進まない原因の一つである相続登記問題について、制度改正の周知と併せ継続的な相談体制を整えることで、空き家を地域資源として、市の活性化につなげていくことを目的とする。		
成果目標	空家所有者の相談を1回/月行い、3枠中2枠以上相談を受ける		
実施場所	市役所本庁舎	事業期間	令和6年6月～令和7年3月
事業の概要	空き家所有者の相談に対し、所有者の漠然とした悩みや具体的な問題へのアドバイスを行っている。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業の企画、運営
	相手側	専門家派遣調整・相談対応
	市側	広報、申込受付、相談調整、補助金等案内

【実施結果】

成果目標の達成状況	概ね達成
協働による効果	所有者の様々な悩みや問題に対し、専門家による的確なアドバイスが行えた。
課題・改善点	平日相談が困難な方への対応

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		首都圏における空き家相談セミナー	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	長野県建築士会安曇野支部・安曇野市空き家バンク仲介事業者	
	市側	市民生活部 移住定住推進課 空家活用係	

相談会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市内の空き家のうち、半数以上の所有者が県外在住者であるが、市内で相談会を開催しても参加が見込めない。また、市職員のみでの相談会は専門知識の不足、特定の業者や物件の案内ができないなど、すぐに課題解決やマッチングにつながりにくい。		
事業の目的	空き家管理の意識が希薄になりがちな県外在住の空き家所有者や、空き家を探している移住希望者をターゲットに、空き家の解消方法や利活用について具体的にイメージすることができる場として、専門家団体に協力を仰ぎ、所有者及び移住希望者の割合の多い首都圏において効果的な相談セミナーを開催する。		
成果目標	首都圏在住者への相談機会の創出		
実施場所	東京都	事業期間	令和6年10月
事業の概要	空き家所有者向けのブースと移住希望者のブースに分け、2日間で各10組ずつ相談を受ける。空き家所有者の相談に対しては、事前に建築士による現地調査を行い、具体的なアドバイスを行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	空き家相談
	相手側	現地調査、専門的な視点での相談
	市側	謝礼（建築士・宅建士）、企画、運営、申込受付、広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	予約枠を超える申込があり、達成できた。
協働による効果	具体的かつ専門的な相談により、効果的な相談会となった。
課題・改善点	相談員に限られるため、時間の調整が困難

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		令和6年度 安曇野市地域支え合い推進 フォーラム	
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. <u>事業協力（協定）</u> 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	1 NPO 法人 JA あづみくらしの助け合いネットワークあんしん 安曇野市社会福祉協議会 2 安曇野市地域見守り活動に関する連携協定締結団体	
	市側	福祉部 高齢者介護課 介護予防担当	

第1部 基調講演の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることを目的に、地域の支え合いによる生活支援・介護予防を広げ、多様な主体によるサービス提供を推進するために「生活支援体制整備事業」を実施している。当該事業において、地域の支え合い等の取組を推進するため、平成29年度からフォーラムを開催している。		
事業の目的	開催年度の情勢に合わせてフォーラム内容を決定している。令和6年度は、今後も増加が予想される独居高齢者への支援について、地域で活動する団体と市民と一緒に考えることを目的とする。		
成果目標	講師による基調講演及び地域で活動する団体による事例紹介をとおして、市民一人ひとりができること、地域ができることを考えるきっかけにさせていただく。		
実施場所	安曇野市役所4階 大会議室	事業期間	令和7年2月22日（土）
事業の概要	講師による基調講演と地域で活動する団体によるパネルディスカッション、及び見守り活動連携協定締結事業所等による展示ブース（10箇所）を設置する。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	1 フォーラムの会場準備、展示ブースの設置等
	相手側	2 パネルディスカッションにおける事例紹介、展示ブースの設置
	市側	フォーラム内容の検討、講師・パネリスト調整、広報、資料印刷等

【実施結果】

成果目標の達成状況	市民118名の来場があり、地域の支え合いの今後について考えるきっかけづくりができた。
協働による効果	民間業者も含めた地域の取組やサービスを周知でき、市民の安心に寄与できた。
課題・改善点	さらなるつながりをつくるため、展示ブースの参加団体を増やしていく。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		精神保健福祉講座「当事者講座」	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	三郷にこ八	
	市側	福祉部	障がい者支援課 支援給付担当

当事者講座

風通しの良い コミュニケーションを！

？



2024.7月20日（土）

13:00～15:00 講演
～気持ちが楽になるコミュニケーションとは～

15:00～16:00 お園りごと相談

場 所：安曇野市豊科公民館 2階大会議室
安曇野市豊科4289-1 電話：0263-72-2158

「精神の病が持つつきつらさ、生活しながら暮らしている当事者の悩み、高齢者世代に特有の悩みになるコミュニケーションを豊科の皆さんが」

コミュニケーションの知識、活用が果たさなければならぬでしょう！
 研 究：お園りごと（人・環境のつながり）
 ※受講者の方は聴講のみ
 ※参加費：不要 ※申し込み：不要

講師紹介

高橋 優子
 1974年より、地域の福祉活動で活動。デパート、百貨店で勤務した後、リハビリとして福祉、OQ（療育）療育施設で活動。その後、障害者支援、再発防止と生活の質の向上を目的として地域を回り、現在は「あしたのかがやき」を運営。「あしたのかがやき」は、障害者支援、再発防止と生活の質の向上を目的として地域を回り、現在は「あしたのかがやき」を運営。「あしたのかがやき」は、障害者支援、再発防止と生活の質の向上を目的として地域を回り、現在は「あしたのかがやき」を運営。

主 催：三郷にこ八
 共 催：安曇野市
 協 賛：NPO法人のびのび（長野県障害者支援協会） ラブフィラ・エンジン（長野県）
 問合せ：☎ 090-9664-7364（三郷にこ八 事務局）
 ※本事業は「安曇野市障害者支援センター」の委託事業として実施されています。

7月20日当事者講座のチラシ

【事業の概要】

取組の背景・課題	「精神の病が持つ生きづらさ」を抱えながら暮らしている当事者の方の気持ちが楽になるコミュニケーションについて学ぶ		
事業の目的	(目的) 「精神の病が持つ生きづらさ」を抱えながら暮らしている当事者の方が気持ちが楽になるコミュニケーションについての講話する。		
成果目標	孤立しがちな当事者及び家族が地域の中で共生できる社会の実現を目指す。		
実施場所	豊科公民館	事業期間	令和6年7月20日
事業の概要	精神障がい者家族へのサポート活動。精神障がい者家族への相談支援・理解啓発・学習会講演会などを通じ、サポートする活動を行っている。 個々の困りごと、相談したい事を話し、講師から具体的な助言をいただきながら参加者全員で共有する。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	当事者家族についてのサポート
	相手側	当事者講座の実施、運営
	市側	団体に対する補助金交付、パンフレット等周知。

【実施結果】

成果目標の達成状況	当日参加者 49 名。当事者や家族が参加する機会を提供できた。
協働による効果	参加した当事者、家族、支援者が講座受講によって情報共有が図れた。
課題・改善点	より多くの当事者や家族に参加いただく工夫が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野玉ねぎ祭り	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野玉ねぎ祭り実行委員会参加団体（者）	
	市側	農林部 農政課 生産振興担当	

玉ねぎ収穫体験の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧豊科町が「安曇野とよしな玉ねぎ祭り」として開催。1997 年(平成 9)に当時の豊科町が「玉ねぎまちづくり連絡協議会」を設け、町を挙げて生産振興を進めてきた。タマネギに含まれる栄養が注目されるなか、砂質土壌で水はけが良い安曇野の地は玉ねぎ栽培に適しており、市内で広く生産がされている。現在では、水田の転作作物として安定して定着化しつつある。		
事業の目的	「安曇野玉ねぎ祭り」を実施し、安曇野市の主要農産物である「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、地産地消による地域農業振興を図ることを目的とする。		
成果目標	「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、産地としての周知を図る。		
実施場所	市内参加団体圃場	事業期間	令和 6 年 6 月 15 日～16 日
事業の概要	市内参加団体圃場において、玉ねぎの販売及び収穫体験を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法の検討及び決定
	相手側	参加団体圃場において、玉ねぎの販売及び収穫体験を行う
	市側	事務局（広報・連絡調整）

【実施結果】

成果目標の達成状況	産地として、またイベントも周知され多くの方に来場いただけた。
協働による効果	「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、産地としての周知を図れた。
課題・改善点	販売価格及び開催時期の調整

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		里山再生計画推進事業	
協働の形態		1. <u>共催</u> 2. <u>事業協力（協定）</u> 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	市民・事業者	
	市側	農林部 耕地林務課 林務担当	

（「あづみの里山フェスタ」の様子）

【事業の概要】

取組の背景・課題	生活様式の変化から里山の利用が減り、放置された森林が増加した結果、水源涵養機能、土砂災害防止機能の低下、林縁部においては鳥獣被害等様々な問題発生しており、多くの皆さんに関心を持ってもらう必要がある。 このような問題の解決に取り組むため、「安曇野市里山再生計画」を策定。		
事業の目的	現在の生活様式にあった里山の利用から再生に繋げていくため、市民・事業者が主体となり、行政と連携した里山再生の取組を進める。		
成果目標	里山をあるべき姿に再生し、元気な里山を取り戻す		
実施場所	市内全域（里山）	事業期間	平成 27 年 4 月～
事業の概要	安曇野市里山再生計画に掲げた「里山の未来像」に共感した市民・事業者・行政が集う 4 つのプロジェクト（里山まきの環プロジェクト、里山木材活用プロジェクト、里山学びの環プロジェクト、里山の魅力発見プロジェクト）が計画推進の主動力となり、市内の里山で様々な取組を進める。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	里山再生につながる全ての活動
	相手側	里山再生活動につながる各種事業の考案及び事業開催等
	市側	さとぷろ。事務局の運営

【実施結果】

成果目標の達成状況	計画策定から 10 年間にわたる取組により、「さとぷろ。」の活動の環が広がりを見せている。
協働による効果	里山再生に携わる多様な主体が連携しながら取組むことの相乗効果
課題・改善点	里山で表面化している様々な社会的な課題にアプローチする取り組みが必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市穂高北穂高地区産業用地整備事業
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	株式会社ヤマウラ・株式会社 d-ネクスト
	市側	商工観光スポーツ部 商工労政課 商工労政担当



(株)ヤマウラ・(株) d-ネクストとの協定調印式

【事業の概要】

取組の背景・課題	市内外企業からの新たな事業用地を求めるニーズが大きいことから、新たな産業用地開発が必要となった。		
事業の目的	・市内企業の事業規模拡大に伴う移転先の確保 ・市外企業の受入先の確保		
成果目標	・市内企業の移転先を確保し、市内企業を市内へ留め、市民の雇用を維持する。 ・市外企業を新たに誘致し、市民の雇用創出、地域経済のさらなる活性化を図る。		
実施場所	穂高北穂高	事業期間	令和6年3月～未定
事業の概要	穂高北穂高地区の青木花見産業団地及び島新田工業団地の周辺地を新たな産業用地として開発する。本事業では、市が単独で開発するのではなく、民間の開発ノウハウや資金力を活用し、スピード感のある開発を目指す。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企業誘致、地元説明
	相手側	設計・測量、地権者交渉、用地取得、許認可取得、造成、分譲
	市側	地域未来法に基づく計画策定、周辺インフラ整備の協力

【実施結果】

成果目標の達成状況	第1期開発に向け、企業誘致を実施中
協働による効果	・民間事業者のネットワークを活用した企業誘致が可能となっている。 ・地権者交渉や整備計画等の専門的な業務を民間事業者が担い、行政負担の軽減に繋がっている。
課題・改善点	・民間事業者が関わることによる地権者や地元の不安感の解消が必要

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野食の感謝祭	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野食の感謝祭実行委員会 （事務局：安曇野市商工会）	
	市側	商工観光スポーツ部 商工労政課 商工労政担当	

北神苑ステージ（あづみ野太鼓保存会）

【事業の概要】

取組の背景・課題	令和5年度より、新そばと食の感謝祭・農林業まつりをリニューアルし、安曇野の「食」と特産品の魅力を再発見していただく機会として開催。		
事業の目的	安曇野のおいしい産物を再発見していただくことで、新たなファンを獲得すると共に安曇野のブランド力の更なる向上を図ることで、地域経済の活性化を図る。		
成果目標	開催2日間における集客人数延べ30,000人		
実施場所	穂高神社特別会場	事業期間	令和6年11月2日 ～令和6年11月3日
事業の概要	長野県、近隣地区長、業種別各種団体、安曇野市商工会等と共に実行委員会を組織し、信州安曇野食の感謝祭を以下のとおり開催した。 北神苑会場（本殿周辺含む） ■安曇野グルメブース（54ブース） スイーツエリア ・地元野菜を使用したスイーツのPR販売 ・安曇野市菓子製造組合による和菓子のPR販売 安曇野グルメエリア ・安曇野わさびを使用した商品やメニューのPR販売 ・安曇野林檎ナポリタン、信州サーモンを使用したメニューのPR販売 ・安曇野の肉、野菜、米、ワサビ、そば、おやき等を使用した商品や特産品のPR販売（キッチンカー含む） ・地酒、ワイン、クラフトビールなどの試飲及びPR販売 ■特設ステージイベント ・市内団体の活動発表及び、姉妹都市のPRなどを展開 ・けん玉パフォーマンス、大道芸などファミリー、子供向けイベントなどを展開 南神苑会場（表参道周辺含む） ■特設ブース（22ブース） ・商工連中信管内事業者による地産地消を主に安全、新鮮な農林水産品や地元食		

	材を取り入れた加工品の PR 販売 (南木曽町・木曽町・筑北村・麻績村・生坂村・松川村・小谷村) ・友好都市による特産品の販売 (埼玉県三郷市・奈良県三郷町・千葉県東金市) ・関係団体による特産品、加工品、クラフト作品などの PR 販売 ■子ども向け体験イベント (参集殿 1F 特設会場) ・甲冑を着用しての無料記念撮影 ・射的イベント (300 円/5 発) 本殿周辺会場 ■地酒を楽しむ会 ・米どころ信州の地酒を、「神前蔵元そば前酒飲み比べ会」として有料で提供 ■豊穰宝船神前奉納 (11/2) ■豊穰宝船奉納野菜配布 (11/3) ■長野県無形民俗文化財指定「穂高人形飾り」や、境内周辺で開催中の「菊花展」を同時開催
--	--

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	実行委員会/連絡調整会議の開催/運営体制の確立/スタッフの確保・協力依頼/当日の運営
	相手側	出展募集/会場設営/事業者委託 等
	市側	施設予約/アルクマ対応 等

【実施結果】

成果目標の達成状況	2 日間来客 : 20,000 人 (延べ人数)
協働による効果	事業の目的を共有し、多くの出展者の協力のもと 2 日間のイベントが盛大に開催され、安曇野市の農産品や加工品等を味わっていただく機会となった。
課題・改善点	他のイベントとの日程が重なったことによる人出の分散、天候悪化時の対応について工夫が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 41 回早春賦まつり	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	早春賦まつり実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

（説明）まつりの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	日本を代表する叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐとともに、早春賦を愛する心を持つ市内外の人による観光交流人口の拡大を図る。早春賦歌碑を知らない人・興味がない人にもイベントを通じて「早春賦」に関心を持ってもらう。		
事業の目的	叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐ、観光客の誘客を図る。		
成果目標	県内外から来場者を集め、「早春賦」を歌い広める。		
実施場所	穂高川右岸 早春賦歌碑前	事業期間	4 月 29 日（月・祝）
事業の概要	市内小学生・文化協会コーラス部合唱、アルパ・ミニハープ演奏、会場全体による早春賦合唱。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	出演者・関係団体との調整。
	市側	各種申請・手配。出演者・関係団体との調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	今年度は5年ぶりとなる通常規模で開催。来賓の招待や、会場内での振る舞い、出店等に加え、積極的な広報も行ったため、かねてからの早春賦まつりのファンや児童の保護者など約 300 人の来場があった。
協働による効果	市内の小学生や合唱グループ、アルパ奏者の皆様に参加いただき、「早春賦」の合唱及び演奏を行う等「早春賦を後世に歌い継ぐ」という目的に沿った内容での開催ができた。
課題・改善点	会場が狭く収容人数の増大は見込めないため、事業規模の維持と誘客のバランスを取りながら、事業が形骸化しないよう取り組んでいく必要がある。 また、事業の目的が観光イベントというよりも早春賦を後世につなげる要素が強くなっていることから、今後の開催方法等を検討していく必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野堀金ロゲイニング 2024	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野ロゲイニング実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

（説明）競技中の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	あやめ祭りの一環として実施していたものを独立して実施している。市内各地域で競技を行ってきたが、今後のやり方を検討する必要がある。		
事業の目的	安曇野を拠点にスポーツと観光を融合したロゲイニングを実施し、交流人口拡大を図る。		
成果目標	ロゲイニングを通じた交流人口の拡大。		
実施場所	安曇野市内	事業期間	不定期
事業の概要	毎年開催地域を変え、地域密着型のイベントとして開催。ロゲイニングを通じて安曇野市の魅力を発信し、安曇野ファンの増加や交流人口拡大を図る。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法決定、広報、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	今年度は堀金・穂高地域を競技エリアとし市内外から約 200 人が参加し、交流人口の拡大に寄与した。
協働による効果	実行委員会を構成している団体と事務局を担っている市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、安曇野ファン獲得に大きな効果があった。
課題・改善点	競技性を損なわずに、より観光色を強めていく必要がある。 実行委員会主体で宿泊や飲食といった方面への効果を高めていく必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 17 回安曇野花火	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野花火実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

（説明）フィナーレの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧 5 町村が合併したことをきっかけに、市民の一体感の醸成と市の振興を目的に商工会青年部などが中心となり開催。今年度においては、コロナ前と同等の規模に戻し、通常規模で開催。		
事業の目的	市民の一体感の醸成と、郷土の振興を目的とする。		
成果目標	安曇野花火を通じた交流人口の拡大。		
実施場所	明科御宝田遊水池周辺	事業期間	8 月 14 日（水）
事業の概要	明科の御宝田遊水池周辺を会場として花火大会を開催する。周辺の交通規制や臨時駐車場を設けることなどで安全な大会運営を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	各部会による事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	今年度は、市内外から約 10,000 人が訪れ、交流人口の拡大に寄与した。
協働による効果	実行委員会を構成している団体と事務局を担っている市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、大きな誘客効果があった。
課題・改善点	実行委員会と市が役割を明確にし、緊急時の対応も含め、より安全な大会運営を行う必要がある。 会場規模、立地条件が限られており、需要拡大に対応するには限界がある。 実行委員の数が減り個々の負担が増加している。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野やさいスイーツプロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野やさいスイーツプロジェクト	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

「安曇野産根菜類」を使ったスイーツの

【事業の概要】

商品発表会の様子

取組の背景・課題	（背景） 本プロジェクトは平成 22 年にスタートし、安曇野産の野菜を使用したスイーツであることを条件として、市産野菜のアピールや安曇野発の商品開発を行い、持続的な地域経済の活性化を図る。 （課題） 参加店舗の減少やテーマとする野菜のマンネリ化などが課題となっている。時期の変更や PR 方法についても検討する段階である。		
事業の目的	地産地消にこだわった新作スイーツイベント「やさいスイーツフェア」を開催することで、安曇野の自然の恵みを多くの人に伝え、安曇野市の新たな食の情報発信を行うことを目的とする。		
成果目標	「野菜×スイーツ」で地産地消を PR し、購入者の市内回遊を図り、安曇野産野菜のブランド力向上と、市の魅力を市内外へ発信することを目標とする。		
実施場所	安曇野市内 （合同販売イベント： 市役所本庁舎）	事業期間	令和 6 年 9 月下旬～同年 11 月
事業の概要	・ 10 月上旬～プロジェクト参加店舗が、安曇野産野菜を使った新作のスイーツを期間限定で販売する。 ・ フェアを通じ、観光・産業・野菜の生産振興につなげる。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	やさいスイーツフェアの実施、合同販売イベントの開催
	相手側	補助金の申請、商品発表会への参加、合同販売イベントへの参加、フェア中の広報
	市側	事務局（広報物の作成、プレスリリース、商品発表会の実施、イベントの備品手配、シールラリー当選者への商品券発送）

【実施結果】

成果目標の達成状況	シールラリー参加者は 47 名。活動を通じて、多くの方々に市内飲食店・菓子店を知ってもらい安曇野やさいスイーツの魅力を発信できた。
協働による効果	地元の老舗スイーツ店が多く参加していることから、市内の方への周知は徐々に広がりを見せている。
課題・改善点	（課題） 参加店舗の減少やテーマとする野菜のマンネリ化などが課題となっている。 （改善点） 設立当初は安曇野市が実施してきた事業であるが、参加店舗が主体となり実施していく必要がある。イベント出展など、プロジェクトとして自主財源の確保に努める必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野 APPLE HALLOWEEN	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（後援）	
実施団体	相手側	JR 東日本長野支社 明科駅周辺まちづくり委員会 信州安曇野ワインマルシェ実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

（説明）イベント会場の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧国鉄篠ノ井線廃線敷にて駅からハイキングと併せたイベントとして 2020 年より実施し、今年で 5 回目。今年は旧国鉄篠ノ井線廃線敷だけでなく明科駅前、龍門淵公園の 3 か所で開催。市は後援として協力している。		
事業の目的	ハロウィンイベントを通して明科地域の魅力を再認識してもらう。また、JR を利用して県外から来た観光客に安曇野市を PR する。		
成果目標	明科駅を含む明科地域の活性化		
実施場所	旧国鉄篠ノ井線廃線敷 明科駅、龍門淵公園	事業期間	10 月最終土曜日・日曜日
事業の概要	・潮神明宮から三五山トンネル間のハロウィン装飾 ・リンゴ、カボチャを用いたワークショップの開催・特産品の販売 ・飲食やクラフトブース等の出店・仮装コンテスト・FM あづみの公開放送 ・ステージイベントの開催・信州安曇野ワインマルシェの開催		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	各種申請・手配。
	市側	出演者・関係団体との調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	両日あわせて市内外から約 3,000 人が訪れ、交流人口の拡大に寄与した。
協働による効果	JR 東日本長野支社、明科駅周辺まちづくり委員会、信州安曇野ワインマルシェ実行委員会、市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、大きな誘客効果があった。
課題・改善点	3 団体の連携を強化する必要がある。安定した財源を確保する仕組みが求められる。地域活性化や観光振興につながるよう、運営体制の見直しが必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野ハーフマラソン事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 スポーツ推進課 スポーツ推進担当	

第10回記念大会 ファミリーの部スタート場面

【事業の概要】

取組の背景・課題	健康寿命を延ばすためにも、普段運動をしない方々に対し、いかに運動を始める機会を創出できるかが求められている。 マラソンブームを背景に大会の人気を伸ばしてきたが、ブームが低迷した場合に参加者をどのようにつなぎ止めるか。 交通規制に対する周知について、例年対応を強化しながら行っているものの、混雑や混乱は少なからず発生しており、これらをいかに減らしていくかが課題となっている。		
事業の目的	大会参加や大会の知名度向上により、安曇野を知ってもらい、県内外からの観光客を誘致するため。 あらゆる世代に対し、スポーツをするきっかけとしてもらうため。 応援やボランティアを通じて市民の一体感の向上を目指すため。		
成果目標	・市内宿泊業の活性化 ・安曇野市の知名度向上 ・スポーツに関わる機会の創出 ・協賛による市内産業の宣伝効果		
実施場所	安曇野市豊科南部総合公園・安曇野市総合体育館（ANCアリーナ）	事業期間	令和5年10月1日 ～令和6年9月30日
事業の概要	信濃毎日新聞社共催のもと、安曇野市や市内スポーツ競技団体、商工業団体等からなる実行委員会を主体に、県内外から6,500人程のランナーを募集し、ハーフマラソン大会を開催する。 ボランティアや協賛者と協力し、参加ランナーに対し安曇野ならではのおもてなしを行う。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒に取組	信州安曇野ハーフマラソンの計画、実施
	相手側	実行委員会の運営、競技運営、安全対策、おもてなし
	市側	補助金の支払、事務局、会計、共催後援申請、各種申請、

【実施結果】

成果目標の達成状況	アンケートではマラソン参加者のうち 17%程が市内宿泊施設を利用し、また参加者向けに提供した宿泊者限定プラン（早朝の朝食用意、会場への送迎、プラン利用者限定テントの用意等を含んだプラン）も好評であった。 マラソン大会評価サイトでは、全国の大会の中でも評価の高い大会である。他の大会が定員割れする中、本大会はエントリー開始から約 2 週間で定員に達する大会となっている。 ランナーとして、またボランティアとして大会に参加することによってマラソンやスポーツを始めるきっかけをつくり、参加者の中には大会を機に陸上競技を始め、全国大会に出場した選手もいた。 市内企業の製品をおもてなし品として提供しており、大会を経るごとにより多くの協賛を賜るようになっている。
協働による効果	市民や市内企業・団体と行政が一体となり、マラソン大会の開催を通じて安曇野市の魅力発信や市民の一体感の醸成、スポーツに触れる機会の創出に取り組むことが出来た。
課題・改善点	マラソン競技者数が減少した場合にも安定して大会参加者を獲得する必要がある。 マラソン大会の運営費用の一部を市の補助金に頼っている状態であることから、市内企業の協賛社をさらに増やす取り組みをし、大会参加費用と協賛金等のみで大会運営を行える状態に変えていく必要がある。 市外からの参加者を市内に引き留め、宿泊者数をさらに増やす取り組みを行う必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市コミュニティスクール事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（連携）	
実施団体	相手側	地域住民、各種ボランティア団体等	
	市側	安曇野市立小中学校 17 校 （教育部 学校教育課 学校教育担当 生涯学習課 社会教育係）	

三郷中学校 地域学校協働活動
第2回 地域学習会

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域社会の中で育まれてきた子ども達の経験や学びの機会が失われつつある中で、子ども達がたくましく生き抜くために必要な能力を身に付けるため、地域全体で多様な教育を行うことが求められている。		
事業の目的	地域住民が学校運営に加わる学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進し、学校と地域全体で子どもの学びと成長を支える。		
成果目標	様々な人やものとの関わりを通して、子ども達の学びや体験活動の充実を図り、地域への愛着心を養う。 地域住民の交流や地域の人材や資源を活用し、地域づくりを進める。		
実施場所	小中学校及び地域	事業期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
事業の概要	市内小中学校に設置された「学校運営協議会」で共有された地域で育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを基に、各小中学校での学校ボランティア活動や、地域と学校による協働活動の実践を進める。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	地域学校協働活動の検討及び提案、活動への参加
	相手側	地域学校協働活動への参加、参加呼びかけ、活動の企画・提案、活動後の要望・感想の伝達
	市側	地域学校協働活動の検討及び提案、活動への参加、支援者や参加者の募集依頼

【実施結果】

成果目標の達成状況	所期の目的は達成され、一定の成果は達成されている。
協働による効果	子ども達の体験活動が充実し、地域住民の生きがいづくりを創出することに繋がった。
課題・改善点	地域住民への制度周知、民意形成と集約方法の確立

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市二十歳の集い	写真 
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	令和7年 安曇野市二十歳の集い 実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 社会教育係	

（説明）実行委員の面々

【事業の概要】

取組の背景・課題	令和4年4月の民法改正で成人年齢が18歳に引き下げられたことにより、これまで20歳＝新成人を対象に行ってきた式典は、よりどころとなる正当な理由を失った。20歳を迎えた若者が集い式典を開催することの意義を、毎回、参加対象者が自ら考え、新たな式典像をつくり上げていく必要がある。		
事業の目的	令和7年1月12日（日）開催「令和7年 安曇野市二十歳の集い（以下「式典」）」に係る企画・運営		
成果目標	安曇野市にゆかりを持つ20歳の若者が一堂に会す式典を行うことで、ふるさと安曇野を思い合うきっかけをつくる。		
実施場所	安曇野市総合体育館 等	事業期間	令和6年8月～令和7年2月
事業の概要	二十歳の集いの広報、式典開催、記念冊子作成		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	実行委員会協議、式典運営
	相手側	「広報」・「企画」・「記念品」の3チーム毎に企画・運営
	市側	実行委員の募集・決定、式典の事前準備、参加者・来賓への開催通知

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者 700 名
協働による効果	- 参加者の意向に沿った完成度・満足度の高い式典となった。（参加者アンケート：大変良い63%、良い34%） - 市からの記念品として、思い出に残る記念冊子を作成することができた。 - 実行委員の達成感を強く感じられる活動となった。
課題・改善点	実行委員内での情報共有、チームリーダーの人选

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市総合芸術展
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野市総合芸術展実行委員会
	市側	教育部 生涯学習 各地域公民館 社会教育係



総合芸術展展示会場の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	合併後、地域を越えて安曇野市がひとつであるという認識を共有し、芸術・文化を通しての地域づくりを考える機会の創出が必要であった。		
事業の目的	安曇野市公民館と協力して、市内で芸術文化に親しむ皆さんの作品を一堂に集め、展示する場を設けることにより、地域を越えて安曇野市がひとつであるという認識を共有し、芸術・文化を通しての地域づくりを考えることを目的とする。		
成果目標	令和5年度展示作品数と来場者数（600人）を上回る展示・来場者数を目標とする。		
実施場所	豊科交流学習センター	事業期間	令和7年3月6日～3月14日
事業の概要	各地域文化祭に出展された作品のなかから選出されたものを一堂に集めて展示をし、芸術・文化を通しての地域づくりを進める。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	総合芸術展の運営・企画全般の検討と実施
	相手側	総合芸術展出品作品の選定、広報
	市側	総合芸術展の広報用ポスター・チラシ・DMハガキの作成

【実施結果】

成果目標の達成状況	改修工事で近代美術館が閉館しており毎年同時期に美術館で開催される絵画展側から来られる方がいなかったため、令和6年度来場者実績は427人となり成果目標まで達することができなかったが、展示作品数は129点で4点増やすことができた。
協働による効果	実行委員、地域公民館、社会教育係の協働により、総合芸術展の展示作品数を増やすことができた。
課題・改善点	各地域公民館での出展者の育成や総合芸術展の周知方法の改善が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第61回（62回）童謡祭り 第 44 回作詞作曲コンクール	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	童謡祭り実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 豊科生涯学習係	

【事業の概要】

第 61 回童謡祭り

取組の背景・課題	「子どもに良い歌を」と願い、豊科町で続いてきた事業。合併後は安曇野市教育委員会が主催し、平成 19 年度から実行委員会が継承した。		
事業の目的	安曇野市豊科出身の詩人でドイツ文学者だった藤森秀夫先生の業績を顕彰するとともに、童謡の心を絶やすことなく伝えていくため。		
成果目標	童謡祭り及び市内児童生徒対象の作詞作曲コンクールを実施し、子どもたちが音楽に親しむ機会を創出する。		
実施場所	豊科公民館	事業期間	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日
事業の概要	第 61 回童謡祭り（期日：5 月 6 日、会場：豊科公民館）において、藤森秀夫作詞の「めえめえ児山羊」を斉唱し、第 43 回作詞作曲コンクール最優秀曲の披露を行った。また、招待演奏としてフルート奏者の演奏、地元合唱団やこども園の園児による演奏を行った。 第 44 回作詞作曲コンクールを実施し、第 62 回童謡祭り（期日：2 月 22 日、会場：豊科公民館）において表彰と最優秀曲の披露及び招待演奏を行った。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	童謡祭り、作詞作曲コンクール表彰式の運営
	相手側	実行委員会の運営
	市側	学校との調整、作詞作曲コンクール応募作品の受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	童謡祭りは、本来（コロナ前）形式に戻して開催することが出来た。また、第 62 回童謡祭りを令和 6 年度内に開催することで、作詞作曲コンクールの表彰、作品の披露を、年度を跨がず行うことが出来た。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、それぞれ役割を分担し取り組み、目標を達成することができた。
課題・改善点	事業開始以来、60 年以上が経過した。時代に即した事業に発展させる必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高納涼祭	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	穂高納涼祭実行委員 穂高商業高校	
	市側	教育部生涯学習課穂高生涯学習係 市民生活部地域づくり課穂高地域担当	

納涼祭風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	当該納涼祭は地域 29 公民館を主体とし、穂高駅前を主会場として開催した納涼盆踊りであったが、コロナ禍明けを経て実行委員会協議により催事内容を見直し、穂高会館を会場とした。		
事業の目的	第 41 回穂高納涼祭は、穂高会館を会場として、穂高地域の方々によるステージ発表を鑑賞したり納涼盆踊りを楽しみ、ご来場の皆様が夏の夕涼みの時間を過ごしていただくことを目的とした。		
成果目標	市民およそ 1,600 人のご来場をいただく。		
実施場所	穂高会館駐車場	事業期間	令和 6 年 8 月 2 日
事業の概要	地域の皆様が集い、ステージ発表を通して夏の夕涼みを楽しむ企画 8 月 2 日（土）夕方より穂高会館駐車場に特設ステージを設置しステージ発表を織り交ぜながら踊り連を一般公募して、「穂高音頭」「HOTAKA サンバ」納涼盆踊りを 5 年ぶりに復活した。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備・片付け、催事運営、
	相手側	出演、会場整理
	市側	企画、契約事務、広報活動

【実施結果】

成果目標の達成状況	未就学児童から高齢者まで、世代を超えた出演者によるパフォーマンス発表の場となり、市民の融和と交流ができた。踊り連の参加が少なかった。
協働による効果	地元高校生が納涼祭の会場準備から出演まで参加し、実行委員や出演者との関わり合いを通して、地域協働の実体験を得ていただけた。
課題・改善点	夏場が実施時期であるので熱中症対策を図る。より多くの参加者を募る

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高地域公民館長杯マレットゴルフ大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	穂高マレットゴルフ協会	
	市側	教育部生涯学習課穂高生涯学習係	

権現宮マレットゴルフ場での開会式

【事業の概要】

取組の背景・課題	スポーツを通じたコミュニティの醸成と日頃の運動不測の解消		
事業の目的	地域にお住いの皆様のマレットゴルフを通じた交流と健康増進を目的とする。		
成果目標	市民およそ 120 人のご参加を目標とする。		
実施場所	権現宮マレットゴルフ場	事業期間	令和 6 年 7 月 20 日
事業の概要	権現宮マレットゴルフ場にてマレットゴルフ大会を実施 参加者延べ 80 人		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備、運営
	相手側	競技進行、競技参加
	市側	参加者募集、競技受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者 68 人
協働による効果	市民の交流と健康増進が期待される。また、協議に精通した市民の協力を得ることにより、当日の競技進行等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	夏場が実施時期であるので熱中症対策を図る。 休日開催にしたことにより昨年度より大勢の参加があった。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市穂高地域ゴルフ大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	穂高地域ゴルフクラブ	
	市側	教育部生涯学習課穂高生涯学習係	



当日配布されたパンフレット

【事業の概要】

取組の背景・課題	スポーツを通じたコミュニティの醸成と日頃の運動不測の解消		
事業の目的	地域にお住いの皆様のゴルフを通じた交流と健康増進を目的とする。		
成果目標	市民およそ 50 人のご参加を目標とする。		
実施場所	安曇野カントリークラブ	事業期間	令和 6 年 8 月 7 日
事業の概要	安曇野カントリークラブにてゴルフ大会を実施 参加者延べ 50 人		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	会場準備、運営
	相手側	競技進行、競技参加
	市側	参加者募集、競技受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者延べ 50 人
協働による効果	市民の交流と健康増進が期待される。また、協議に精通した市民の協力を得ることにより、当日の競技進行等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	夏場が実施時期であるので熱中症対策を図る。幅広い年齢層の参加を促す。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高文化祭	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	穂高文化協会 穂高商業高校	
	市側	教育部生涯学習課穂高生涯学習係	

穂高地域で活動する団体のステージ発表

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域の文化・芸術作品の展示を行い、市民が集うことで地域の文化・芸術活動の理解、市民の親睦を図る。		
事業の目的	市民の文化、産業の振興及び親睦を図る。		
成果目標	市民およそ 1,000 人のご来場をいただく。		
実施場所	穂高会館及び穂高神社	事業期間	令和 6 年 10 月 11 日～11 月 17 日
事業の概要	文化・芸術作品展示、芸能まつり、菊花作品等の展示を行う。 総合美術展 10 月 25 日（金）から 10 月 27 日（日） 穂高総合体育館アリーナ 芸能まつり 10 月 25 日（金）から 10 月 27 日（日） 穂高公民館講堂 あづみ野菊花展・盆栽、山野草店・穂高人形展 10 月 11 日（金）から 11 月 17 日（日） 穂高神社境内		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企画、会場準備
	相手側	出演、催事運営、会場整理
	市側	事務局、広報活動

【実施結果】

成果目標の達成状況	未就学児童から高齢者まで、世代を超えた出演者によるパフォーマンス発表の場となり、市民の融和と交流ができた。
協働による効果	地元高校生が受付や会場準備、片付けに参加し、穂高文化協会や出演者との関わり合いを通して、地域協働の実体験を得ていただけた。
課題・改善点	参加していただいている団体の高齢化による後継者問題。 より多くの参加者を募る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高地域地区公民館対抗球技大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 （協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	穂高家庭婦人バレーボール協会 穂高壮年ソフトボール連盟 穂高ソフトバレーボールクラブ	
	市側	教育部生涯学習課穂高生涯学習係	

ソフトバレーボール大会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	球技大会の開催には、地区公民館役員の協力が不可欠であるが、人集めが困難との声が多く増えてきた。		
事業の目的	市民体力の向上及び公民館の親睦を図る。		
成果目標	穂高地域内全地区公民館より参加いただく。		
実施場所	穂高地域内体育施設	事業期間	令和6年6月16日、10月6日
事業の概要	令和6年6月16日（日） ソフトボール大会【西穂高G】、【穂高西中G】、【有明G】 9人制バレーボール【穂高総合体育館アリーナ】 令和6年10月6日（日） ソフトバレーボール【穂高総合体育館アリーナ】、【穂高東中体育館】		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	会場準備・片付け、大会運営、
	相手側	大会進行・審判
	市側	企画、広報活動

【実施結果】

成果目標の達成状況	ソフトボール23チーム参加、バレーボール7チーム参加 ソフトバレー29チーム参加
協働による効果	スポーツ団体、地区公民館から審判等ご協力いただき、会場設営・当日の進行を行うことができた。
課題・改善点	地区公民館対抗の形式は残しつつ、参加しやすい競技種目を企画する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域市民文化産業展及び菊花展)
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. <u>実行委員会</u> 4. その他()
実施団体	相手側	三郷地域市民文化産業展実行委員会
	市側	教育部 生涯学習課 三郷生涯学習係



三郷地域市民文化産業展

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域の文化・芸術作品の展示を行い、市民が集うことで地域の文化・芸術活動の理解、市民の親睦を図る。		
事業の目的	市民の文化、産業の振興及び親睦を図る。		
成果目標	作品の出展を三郷地域内へ広く募る。1,000人以上の来場を目指す。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和6年6月～令和6年12月 (開催は、文化産業展：10月12日～10月14日、 菊花展：11月5日～11月15日)
事業の概要	文化・芸術作品展示(こども園児及び小中学生の力作展含む)や菊花作品展示を行う。 <u>展示内容</u> 三郷地域住民の芸術文化作品及び小・中学校児童・生徒の力作展、認定こども園の園児及び友好都市の生徒の力作展、みさと伝統こどもいけばな教室展示		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	出展作品の搬入及び搬出の補助、会場内の監視
	相手側	開催内容についての協議
	市側	広報、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	出展者：約520の団体及び個人(約670点)、来場者：約1,020人
協働による効果	行政のみで実施するよりも自分たちの活動との意識のもと、責任を持った運営を行うことで、準備等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	市民グループ等の高齢化に伴い、若い世代の出展数が減少しているため、三郷公民館ホームページなどで出展募集を広く周知したい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域市民運動会)
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. <u>実行委員会</u> 4. その他()
実施団体	相手側	三郷地域市民運動会実行委員会
	市側	教育部 生涯学習課 三郷生涯学習係



三郷地域市民運動会

【事業の概要】

取組の背景・課題	運動会への参加については、地区公民館役員の負担をできるだけ軽減する必要がある。また、運動会開催の意義を共有する必要がある。		
事業の目的	市民体力の向上及び市民相互の融和を図る。		
成果目標	種目への参加を三郷地域内へ広く募る。1,000人以上の来場を目指す。		
実施場所	三郷文化公園グラウンド	事業期間	令和6年6月～令和6年12月 (開催は10月20日)
事業の概要	これまで開催してきた運動会の種目を全面的に見直し、参加しやすい運動を開催することで、市民の親睦を図る。 《実施した種目》計9種目 三郷〇×クイズ、みんなそろって大玉送り、心を合わせて二人三脚、 跳んで1分大縄跳び、一致団結リレー、避難準備は大丈夫？、 おやつですよ。パンゲット!、親子でダンスとお土産ひろい、小学生ダンス		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場設営、参加者募集
	相手側	種目への参加、運営協力
	市側	広報、事務局、運営

【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者 1,100人(種目参加者含む)
協働による効果	行政のみで実施するよりも自分たちの活動との意識のもと、責任を持った運営を行うことで、当日の進行等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	市スポーツ協会関係団体にも、より一層協力の機運を高めていただきたい。スポーツ推進委員の指導の下、新たな種目や運営方法を検討したい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域市民ふれあいコンサート)
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. <u>実行委員会</u> 4. その他()
実施団体	相手側	三郷地域市民ふれあいコンサート実行委員会
	市側	教育部 生涯学習課 三郷生涯学習係



三郷地域市民ふれあいコンサート

【事業の概要】

取組の背景・課題	音楽団体が日頃の練習の成果を発表することで、市民が集い地域の芸能・文化活動の理解、市民の親睦を図っている。		
事業の目的	市民が音楽にふれあうことで市民相互の融和及び精神的豊かさの向上を図る。		
成果目標	出演者を三郷地域内へ広く募る。300人以上の来場を目指す。		
実施場所	三郷中学校 講堂	事業期間	令和6年6月～令和6年12月 (開催は10月26日)
事業の概要	三郷公民館を利用している音楽団体を中心にステージを設定した。 出演者 91名(団体6、個人1)		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	受付、会場設営
	相手側	出演、司会進行
	市側	広報、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者 233人(出演者含む)
協働による効果	行政のみで実施するよりも自分たちの活動との意識のもと、責任を持った運営を行うことで、準備等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	出演者が減少傾向にあるため、より多くの団体・個人に出演していただくよう、周知の方法を工夫する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

※市の担当者が記入して下さい。

事業の名称		第8回常念フェスティバル
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）
実施団体	相手側	常念フェスティバル実行委員会
	市側	教育部生涯学習課堀金生涯学習係 市民生活部地域づくり課堀金地域担当



豊科高校書道部によるパフォーマンス

【事業の概要】

取組の背景・課題	「堀金だけ夏祭りが無い、さみしい…」との声を受け、有志による実行委員会が主催（事務局：堀金地域課・堀金公民館）で平成29年から開催。令和5年度からは各種団体からも実行委員会に参加いただいている。フェスティバルが堀金の夏祭りとして認知・継続していくか、また実行委員の高齢化が課題となっている。		
事業の目的	地域コミュニティの活性化、地域振興		
成果目標	「常念フェスティバル」を開催し、市民が集い、楽しんでいただく。		
実施場所	堀金多目的屋内運動場・堀金中央公園	事業期間	令和6年8月24日
事業の概要	26団体から実行委員として参加協力いただき、会議及び当日の運営に携わっていただいた。 ○常念フェスティバルの内容 パフォーマンス（ステージ発表）、出店、ウォータープレイランド等体験コーナー、子ども食堂、福もち福菓子投げ など		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	フェスティバルの企画・運営
	相手側	協賛金集め
	市側	広報、会場提供、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	多くの来場があり盛大に開催することができた。
協働による効果	各種団体の出店、支援を得ることができた。
課題・改善点	実行委員の高齢化、協賛金集めが難しくなってきたこと

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		堀金地域市民運動会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	堀金地域市民運動会実行委員会	
	市側	教育部生涯学習課堀金生涯学習係	

こどもたちが多く参加した玉入れ

【事業の概要】

取組の背景・課題	運動会の開催には、地区公民館役員の協力が不可欠であるが、人集めが困難との声が多くようになってきた。		
事業の目的	地域の住民、家庭、学校が連携・協働し、世代を超えて交流、また健康と体力づくりのため		
成果目標	運動会を開催することで、地域に生活する住民が集う場をもち、市民の交流を促進する。		
実施場所	堀金小学校校庭	事業期間	令和6年10月13日
事業の概要	地区公民館対抗の形式は残しつつ、各種団体も参加しやすい競技を増やす（ウルトラクイズ、パン食い競争、玉入れ、地区対抗リレーほか）。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企画、運営
	相手側	種目への参加
	市側	広報、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	昨年度は雨天中止により、2年ぶりに開催し、住民が集い、交流する場を提供することができた。
協働による効果	スポーツ団体、地区公民館から実行委員に参加していただき、会場設営・当日の進行を行うことができた。
課題・改善点	地区公民館対抗の形式は残しつつ、各種団体も参加しやすく観客も楽しめる競技種目を企画する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業 の 名 称		いいまちサロン	
協働 の 形 態		1. ☒ 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実 施 団 体	相 手 側	明科いいまちつくろかい！	
	市 側	教育部 生涯学習課 明科生涯学習係	



写真

写真

（説明）R5.9/2 うまいもん市で団体の主張後の集合写真

【事業の概要】

取組の背景・課題	明科地域は、高齢化や独居老人の増加に伴い、地域とのつながりが希薄になってきています。		
事業の目的	「交流、親睦、学び」を目的とします。		
成果目標	高齢化社会に向けての健康づくり、絆づくり、生きがいくりに取り組み、保健福祉や生涯学習の向上に努めます。		
実施場所	明科地域	事業期間	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日
事業の概要	毎月テーマを決め、お茶を飲みながら気軽に参加できるサロンを最終火曜日を基本に開催しました。歌声サロンではピアノに合わせ懐かしい歌を歌い、健康づくり講座では発酵文化を学び、麴などの発酵食品を使った健康食を作りました。8/31に「うまいもん市」を開催する予定でしたが台風10号の影響で中止しました。		

【協働の役割分担】

役割 分 担	一緒の取組	いいまちサロンの開催
	相手側	企画立案、準備、当日の運営等
	市側	会場手配〈明科公民館〉、参加申込の受付、広報掲載

【実施結果】

成果目標の達成状況	達成できました
協働による効果	役割分担により効果的にサロンを開催することができました。
課題・改善点	会員の高齢化により事業や組織の存続が危ぶまれるため、次世代会員の獲得が課題であります。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 33 回信州安曇野薪能
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	信州安曇野薪能実行委員会
	市側	教育部 文化課 文化振興担当



能公演の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	・安曇野市名誉市民で観世流能楽師の青木祥二郎氏の顕彰をする。 ・上質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。 ・文化資源を活用して、観光振興に協力する。		
事業の目的	・格調高い能楽公演の実施を通して、安曇野市名誉市民で観世流能楽師の青木祥二郎（明科出身・重要無形文化財保持者（総合認定））の業績を顕彰。また、安曇野市の芸術文化の向上に寄与する。さらに、観光振興に寄与する。		
成果目標	来場者数 800 人		
実施場所	明科体育館 （雨天により屋内に変更）	事業期間	令和 6 年 8 月 24 日（土） 午後 4 時 30 分～9 時
事業の概要	・能楽の公演（舞囃子：清経 能：江口 狂言：太刀奪 能：鶴飼 真如之月） ・あづみのこども能楽教室で能楽を学んでいる子どもたちの発表 ・公演のための準備や資金調達		

【協働の役割分担】

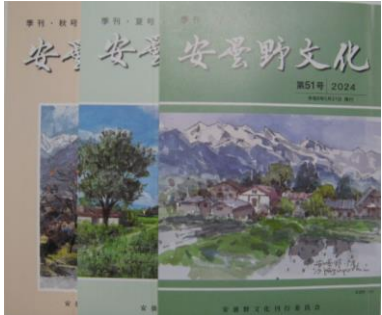
役割 分担	一緒の取組	・薪能の実施、事業の P R
	相手側	・事業についての企画立案・審議・予算執行、会計処理、チケット販売、広告協賛金依頼、当日の運営
	市側	・補助金の交付、施設の貸し出し

【実施結果】

成果目標の達成状況	489 人の入場
協働による効果	・市民が実行委員となることで、広告協賛の募集や能楽に関する知識の提供のノウハウを活用できた。また、市民が運営や企画立案にかかわることで、情報が拡散し薪能の実施の機運が高まった。さらに能楽を学ぶ子どもたちの発表の場を提供できた。
課題・改善点	・幅広い年齢層の来場者を増やすために、効果的な P R を行うこと。 ・天候や会場の環境に即した安全かつ円滑な運営を行うこと。 ・運営に係る資金調達。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野文化刊行事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（刊行委員会 市は事務局を担当）	
実施団体	相手側	安曇野文化刊行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

安曇野文化 51号～53号

【事業の概要】

取組の背景・課題	三郷地域で刊行されていた「三郷文化」が平成23年夏号をもって創刊30年を迎えるにあたり、区切りをつけ、以降「安曇野文化」として刊行することとし、平成23年5月に安曇野文化刊行委員会が発足。平成23年秋からの「安曇野文化」創刊に向け「安曇野文化編集委員会」を組織し、平成23年11月30日に創刊号を発行した。		
事業の目的	安曇野の恵まれた文化を広く見つめ、ふるさとの自然と歴史、文芸、教育、産業、生活等の万般の文化に更に光を当て、広く市民に享受していただくと共に、地域文化を創造し大切にすることによって、地域の活性化と一層の安曇野市の文化の発展を期待することを目的として季刊誌「安曇野文化」を作る。		
成果目標	購読者数…三郷文化最終号 約460名、安曇野文化創刊号 約500名（平成23年12月9日現在）、令和7年1月現在で383名である。購読者数を可能な限り増やしたい。		
実施場所	貞享義民記念館（編集室）	事業期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
事業の概要	「安曇野文化」発刊 第55号(春号)令和7年5月31日 第56号(夏号)令和7年8月31日 第7号(秋号)令和7年11月30日 第54号(冬号)令和8年1月28日 刊行委員会は年度末に開催し、年4回の発行に併せて編集委員会を開催する。 編集委員会は執筆者の選定から各号を購読者に届けるまでの実務を行う。購読料と安曇野市からの補助金により事業を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒に取組	・刊行委員会、編集委員会の開催。購読者数増加に向けての取り組み
	相手側	・各号の原稿依頼と収集、編集作業、発行、配布
	市側	・事務局を担当

【実施結果】

成果目標の達成状況	新規の購読者も獲得しているが、継続購読者の高齢化等により購読停止する方が増加しており、全体としての継続購読者数は減少傾向である。 地元書店等での販売も行っているが、更に販路を拡大したい。
協働による効果	三郷地区に限定されていた内容が市全域を扱うようになり、編集委員、執筆者とも市全域から募り、それぞれの地域で活動頂いている。 委員や執筆者の周囲への声掛けにより、購読者が市内全域に広がり、市内外の方々に、安曇野について広く知っていただくことに繋がった。
課題・改善点	印刷費、送料の高騰に対する予算措置、購読者数増加に向けた取り組みが必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 20 回 あづみの公園早春賦音楽祭	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

（説明）市内中学校による吹奏楽の発表

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野の自然・風景を活かした国営アルプスあづみの公園において、音楽による社会教育の促進や観光振興を図りたい。		
事業の目的	市民参加による音楽祭を開催し、安曇野に生まれた「早春賦」をはじめ、地域に歌い継がれている歌を通して、地域文化と安曇野の良さを知っていただき、地域の振興に寄与する。		
成果目標	入場者数目標 7,000 人		
実施場所	国営あづみのアルプス公園（堀金・穂高地区）	事業期間	令和 6 年 5 月 12 日
事業の概要	会場設営：ステージ設営・運営・撤去、物品準備、来園者の誘導・案内 イベント運営：当日の人員配置、役割分担の調整 学校との調整：出演する学校との調整、バス・楽器手配 広報：広報物による、出演者・ボランティアの募集、開催告知		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	会場設営、当日の運営
	相手側	実行委員会の会議開催、当日までの各団体の連絡調整
	市側	補助金交付による資金援助、運営補助

【実施結果】

成果目標の達成状況	入場者数は 5,760 人。例年より多かったが、目標には達せず。
協働による効果	協働で取り組むことにより学校関係、市民が参加できる方法を最大限検討できた。
課題・改善点	学校関係の出演については、今後の部活動地域移行を踏まえた柔軟な対応が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野さんぽ市 2024	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野さんぽ市実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

（説明）当日の出展の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域で活動するものづくり作家（アマチュアも含む）と使い手側の市民とが直接顔を合わせ、交流する機会を創出することを目的とした。		
事業の目的	地域に根付いた活動をするものづくり作家と、使い手側とが交流できる場を作る。また、会場である穂高交流学习センターを多くの市民に利用してもらい、交流の場としての役割を果たす。		
成果目標	人の出会いや交流の創出、それらの場としての施設の定着。		
実施場所	安曇野市穂高交流学习センター「みらい」	事業期間	令和6年5月18日～5月19日
事業の概要	安曇野市を中心に活動するものづくり作家や職人たちが出展者となり、手作り品の展示・販売・ワークショップを行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営、来場者受付、イベント告知
	相手側	事務局（参加者募集、問い合わせ対応、支出管理）、ブース配置決め など
	市側	施設の貸出し、敷地内の管理 など

【実施結果】

成果目標の達成状況	ものづくり作家や職人たちと市民が交流する場や機会をつくり出すことができた。
協働による効果	市民と行政が連携することで、交流の場を創出することができた。
課題・改善点	・ 出展者に搬出入の時間や運営ルールを徹底し、混乱がないようにする。 ・ 参加者募集受付にGoogleフォームを使い、複数人で管理することで事務管理の精度を高める。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ふるさと探究事業と担い手育成事業	写真 
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	NPO 法人ふるさとづくり応援団	
	市側	教育部 文化課 文化財保護係	

（説明）参加者へ説明するスタッフ

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野の暮らしに根付き脈々と受け継がれてきた文化や遺産の継承・維持が、超少子高齢化、コロナ禍等により危うい状況にある。		
事業の目的	安曇野の暮らしに根付く文化や遺産を、実際に現地を歩きながら謎解きをすることにより、知って学ぶこと。また、それらを継承していくことができる若者を増やすために、信州大学の学生に本事業にスタッフとしてかかわっていただくことから始めたい。		
成果目標	信州大学生の参加者のべ参加者数 3 人日		
実施場所	市内各所	事業期間	令和 6 年 5 月～令和 7 年 3 月
事業の概要	・ 堀金小学校等での地域学習での探究学習の実施 ・ 国重要文化財曾根原家住宅での落ち葉拾い ・ 武蔵野第 6 中学のセカンドスクールでの探究学習の実施など		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	信州大学との打ち合わせ、事業の周知
	相手側	事業の計画、当日の運営
	市側	スタッフ謝礼、信州大学との連絡調整

【実施結果】

成果目標の達成状況	信州大学生の参加人数 23 人日
協働による効果	文化財を行政や所有者だけでなく、地域全体で保護・活用していくという意識醸成へつながることができる。
課題・改善点	信州大学生の安曇野での拠点があるとよい。また、学生が安曇野まで来る、または交通手段の確保

発行日：令和7年3月

編集・発行：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課
まちづくり推進担当（本庁舎2階4番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176